



2023年9月9日から10月1日

写真展「夢洲の生きものたちの記録」

大阪自然環境保全協会が2019年より行っていた夢洲での生きもの調査での記録写真をパネル16枚にして展示いたします。合わせて日本画作品「夢洲の記憶シリーズ」8点も展示いたします。

9月23日（土祝） 13:30より15:00

ミュージアムトーク「すごいぞ夢洲！

水鳥の楽園の過去と未来」

大阪自然環境保全協会会長 夏原 由博

場所：きしわだ自然資料館 1階ホール

参加：無料 申込：不要

主催：公益社団法人 大阪自然環境保全協会

共催：きしわだ自然資料館



詳細・お問い合わせは
公益社団法人
大阪自然環境保全協会
夢洲生きもの調査グループ



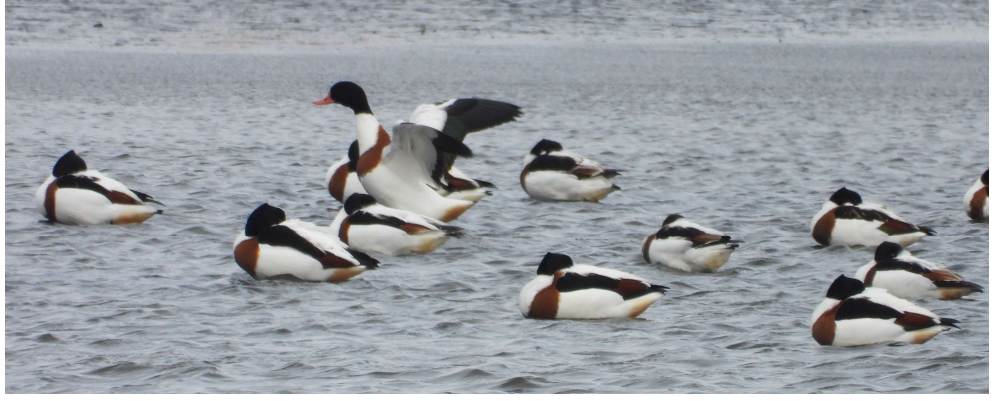
このような写真展開催の場所をご提供くださるところを探しています。
(写真提供/きしわだ自然資料館)

2023年度環境再生保全機構地球環境基金の助成で開催しています。
助成活動名「SDGs万博市民アクション」





セイタカシギの交尾



ツクシガモ、本州最大の飛来数

夢洲は、EXPO2025の開催が予定されている人工島で、大阪市のベイエリアにあります。すぐ近くの南港野鳥園とともに、大阪府の「生物多様性ホットスポットAランク」に指定されています。私たちは、2019年から、ここ夢洲には実際どのくらいの生きものがいるのか、港湾局に入場許可をもらい、生きもの調査をすることにしました。

40年前に埋め立てが始ったこの「夢洲」では、埋め立てが進むと次第に草が生え、昆虫が棲み、鳥が集い、多様な生態系が生まれていました。私たちの3年あまりの調査で確認した鳥類は113種。そのうち、レッドリスト（絶滅の恐れのある生物のリスト）掲載種は51種になります。（この調査結果は、「市民からの環境アセスメント」として、公開しています。）

大阪湾沿岸の自然は近世から現代にわたり失われ続けてきましたが、夢洲では浚渫土を海水で吸い上げて流し込んでいたため、広々とした塩性湿地が生まれていました。夢洲の多くの命を支えていたのは、万博予定エリアにあるこの塩性湿地とその一角のヨシ原で、注目すべき種はほとんどこの付近にいました。

夢洲は、シギ・チドリ・カモなど国境をまたいで何千キロもの旅をする野鳥にとっては翼を休めゆっくり栄養と休息をとる場所であり、猛禽類に、

としては命を維持するための狩りの場所、コアジサシやセイタカシギ、シロチドリやセッカ・ヒバリなど小さな鳥たちにとっては、繁殖と子育ての場所になっていました。

2022年、昆明モントリオール国際会議で、水域・陸域のそれぞれ30%を自然に戻すことが採択されました。私たちは、万博後の夢洲に再びこの豊かな自然を再興し、大阪湾全体の自然の豊かさを取り戻すきっかけになることを願っています。

大阪自然環境保全協会会長 夏原 由博



オカヨシガモ（左）を威嚇するヨシガモ



NEWS！ 今年2023年夏も夢洲ではセイタカシギの繁殖が成功しています。